

革マル右翼  
分裂組織

# 真国労を叩きつぶせ

革マルが遂に全国の  
分裂破壊攻撃を開始

# 日刊 動労千葉

86.4.10  
No. 2212

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）五五五六（公衆）〇四七二二七〇七

## 国鉄千葉動力車労働組合

動労「本部」革マルは、三月中旬、国労東京地本から革マル系分子を中心に約百三十名を脱退させ、動労に加入させたのに続き、四月七日、国労上野支部の革マル系分子と謀り、国労東京地本の営業系統の約千三百名の組合員を国労から脱退させ、「真国鉄労働組合」（真国労）の旗上げ準備会を結成させるなど、政府・当局と一体となった国労分断・解体攻撃を一気に強めている。わが動労千葉に對しても謀略ビラ郵送を始め、許しがたい組織破壊攻撃を策動している。この国鉄労働運動解体攻撃の先兵・動労革マルを徹底的に粉碎・一掃せよ。

### 革マル分子による 国鉄労働運動解体攻撃許すな

動労革マルはこの一月、鉄労・全施労と共にスト放棄、合理化Ⅱ首切り推進の「労使共同宣言」を発し、国労に揺さぶりをかけ、広域配転についても、同じく鉄労・全施労と共に、積極的に応じることを当局と確認、「当局（桃太郎）」といつしよに犬（動労革マル）キジ（鉄労）サル（全施労）が鬼（国労）退治を」と自から言い放ち、国労解体Ⅱ国鉄労働運動解体に血道を上げてきた。

そして、三月十四日には国労東京から一・二・三名を動労に脱退させてきたのである。さらに、三月二十五日には、総評国鉄再建闘争本部に對し、国労が三月十日の中央委員会に社会党案（民営賛成・分割反対）の支持を決定したが、反対派が多く信用できないとして「国労との共闘はできない」と通告、国労はもつと屈服せよと、国労中央の屈服と無方針を見すかしカサにかかった組織破壊攻撃に打って出てきた。

### 中曾根・革マルが結託

政府もこれと呼応し、国鉄関連法案の審議に入った四月一日、総評が、国鉄の雇用問題での政労交渉を申し入れたのに對し、後藤田官房長官は「会うのはやぶさかではないが、国労が『労使共同宣言』を認めるのが前提である」と、完全に国労をなめ切り見下し、もつと徹底的に屈服せよとせまったのである。

### 国労の内部からの解体が目的

真国労は、こうした一連の動きの中で動揺する国労組合員に動労革マルと結託した国労内革マル分子が取り入り、内部から国労解体を目指して結成が進められた許しがたいものである。七日の準備会発足に続き、十三日に正式に旗上げするとしているが、その方針は「分割・民営化は時代の流れである」という認識のもと①「労使共同宣言」の締結 ②動労革マル、鉄労、全施労との共闘 ③営業の他、運輸・施設等にも拡大する ④東京他、全国に組織を拡大し、三万人を目指す」としてあり、まさに御用組合として国労解体を狙っていることが明らかである。鉄労は、「真国労が目指す方向は、われわれと同じ」とこれを大歓迎している。まさに、国労運動、国鉄労働運動の重大な危機であると言える。

### 団結を打ち固め、 動労革マル追放・一掃へ

いよいよ本格的攻防の段階に入った国鉄決戦において、政府・当局・動労革マルは、動労千葉の二波の闘いで切り拓いた地平の抹殺をかけ、先制的に攻撃をかけてきている。

われわれは、かかる国鉄労働運動解体攻撃を断じて許さないためにも、闘う方針に確信をもち、団結を打ち固め、動労革マル追放・一掃の闘いをさらに強化しよう。